

## 主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

## 理 由

弁護人笠島永之助の上告趣意（後記）について

かりに最低限度の生活すら営み得ないで罪を犯したとしても、その行為が憲法二  
五条一項の規定によつて正当化され、或は実刑を免れるわけのものではなく、又被  
告人に実刑を科する結果、その家族が生活困難に陥るとしてもその判決を右憲法の  
条規に違反するものということのできないことは、既に当裁判所の屢々判例とする  
ところであつて、論旨はその理由がない。（昭和二三年（れ）第二〇五号同二三年  
九月二九日大法廷判決、昭和二二年（れ）第一〇五号同二三年四月七日大法廷判決  
参照）

なお、記録を調べても刑訴四―一条を適用すべきものとは認められないから、同  
四〇八条一―一条に従い全裁判官一致の意見により主文のとおり判決する。

昭和二七年三月二八日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎